

# 平成22年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：ダイズ害虫一般（カメムシ類、ハスモンヨトウほか）

平成22年8月11日

鳥取県病害虫防除所

## 1 情報の内容

8月10日現在、カメムシ類及びハスモンヨトウの発生は平年並であるが、今後、発生に好適な気象条件が続くと予想されるため、カメムシ類の基幹防除の徹底、ハスモンヨトウの早期発見・早期防除に努める。

また、チョウ目害虫の発生が多いほ場が散見されるので、各ほ場の発生状況をよく観察し、食害が多い場合は防除を行う。

## 2 発生状況

### 【カメムシ類】

- (1) 8月9～10日に行った県内巡回調査（東部4地点、中部4地点、西部3地点）の結果、発生ほ場率は50.0%（H12～21年の平均値：40.4%）、25株当たり平均成幼虫数は0.8頭（H12～21年の平均値：1.2頭）で、平年並の発生であった。
- (2) 8月上旬現在、予察灯への総誘殺数は平年並である。
- (3) 現在、ほ場ではホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシの成虫が発生している。

### 【ハスモンヨトウ】

- (1) 8月9～10日に行った県内巡回調査（東部4地点、中部4地点、西部3地点）の結果、発生ほ場率は46.7%（H12～21年の平均値：38.3%）、1a当たりの平均白変か所数は0.3か所（H12～21年の平均値：0.3か所）で、平年並の発生であった。
- (2) 現在、ほ場では若齢～老齢幼虫が発生している。
- (3) フェロモントラップ調査の結果、7月第1半旬～8月第1半旬までの成虫総誘殺数は平年並であった（表1）。また、フェロモントラップの誘殺消長から、8月下旬頃に再び白変葉が増加し始めると予想される。

### 【チョウ目害虫】

中部～西部地区を中心に、ウワバ類などチョウ目害虫の発生が多いほ場が散見されている。

表1 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫誘殺数の推移

月・半旬	鳥取市橋本(農試)		鳥取市河原町		湯梨浜町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7・1	10	22.3	7	29.1	2.9	121.9
7・2	11	28.3	2	30.6	86.4	87.4
7・3	33	29.9	26	34.7	137.3	65.5
7・4	64	27.9	36	35.6	117.9	98.2
7・5	26	16.0	34	20.1	88.1	109.7
7・6	32	19.6	54	23.0	74.6	181.7
8・1	11	26.1	34	58.1		
計	187	170.1	193	231.2	507.2	664.4

注) 鳥取市橋本は乾式トラップ、その他の地点はファネルトラップを使用。

鳥取市橋本、湯梨浜町の平年は過去10年間の平均、鳥取市河原町の平年は過去7年間の平均

### 3 防除上注意すべき事項

#### (1) カメムシ類

向こう1か月の気象予報から、本種の増殖に好適な条件が続くと予想されるため、下記を参考にして基幹防除を徹底する。なお、本種の防除は紫斑病との同時防除を原則とする。

#### ア 紫斑病に水和剤を使う場合

##### (ア) カメムシ防除にネオニコチノイド系殺虫剤を使用する場合

- ・開花期後30～35日(全体の花が終わった時期)の1回防除を基本とし、紫斑病防除薬剤(アミスター20フロアブルの2,000倍)とカメムシ防除剤(ダントツ水溶剤、スタークル顆粒水溶剤のいずれかの2,000倍)の混用で100 $\mu$ g/10aの薬液を散布する。  
なお、展着剤を必ず加用する。
- ・カメムシ類の発生が多い場合は、前回散布の10日後に、カメムシ防除剤(ネオニコチノイド系以外の水和剤あるいは粉剤)を散布する。

##### (イ) カメムシ防除にネオニコチノイド系殺虫剤以外の剤を使用する場合は、2回防除を基本とする。

- ・1回目:開花期後25～30日(全体の花が終わった時期)  
紫斑病防除薬剤(アミスター20フロアブルの3,000倍)とカメムシ防除剤(エルサン乳剤、スミチオン乳剤、トレボン乳剤のいずれか1剤の1,000倍)の混用で薬量は150～300 $\mu$ g/10a  
なお、展着剤を必ず加用する。
- ・2回目:1回目防除の10日後  
カメムシ防除剤(水和剤あるいは粉剤)

#### イ 紫斑病に粉剤を使う場合

- ・1回目:開花期後25～30日後 マネージトレボン粉剤DL
- ・2回目:1回目防除の10日後 トレボン粉剤DL、MR.ジョーカー粉剤DL  
等カメムシ防除剤

#### (2) ハスモンヨトウ

ア 若齢幼虫の加害によって発生する白変葉の早期発見に努める。発生初期の場合、葉の切除などの捕殺を行うか、農薬のスポット散布を行う。

イ 防除の目安は、1a当たりの白変か所数5か所以上とする。

ウ 新葉の出葉により、白変葉が確認されにくいほ場が多いので、観察にあたっては、ほ場周辺からの観察のみならず、ほ場内での観察も行う。

エ 若齢幼虫に対する登録農薬の効果は高いが、齢期が進むと防除効果が低下するため、散布適期を失しないようにする。なお、中齢～老齢幼虫が混在する場合は、ロムダン粉剤DL、ミミックジョーカー粉剤DL、ラービンフロアブル、マトリックフロアブルなどを散布すると、比較的効果が高い。

#### (3) チョウ目害虫

各ほ場の発生状況をよく観察し、上位葉が激しく食害されている場合は、農薬使用基準に従って防除を行う。